

# 第3回 米代川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会

## 第7回 米代川圏域流域治水協議会

能代河川国道事務所

～気候変動に対応した【流域治水プロジェクトVer2.0】を承認～  
～水害を自分事として捉える【流域治水の自分事化】を推進～

### 1. 概要

気候変動(2℃上昇)による降雨量増加(1.1倍)に対応していくため、米代川河道掘削の推進(前計画の2倍)や防災拠点の整備拡大、内外水統合型リスクマップ作成など、**新たな治水対策を盛り込んだ【流域治水プロジェクトVer2.0】の公表**について提案し、承認を得ました。また、**個人に水害を「自分事」として捉えることを促す取組をまとめた「令和6年度自分事化に向けた取組計画」**を提案し、こちらも承認されました。本協議会から、**米代川上流に位置する「岩手県」及び「八幡平市」**が新たに参加し、関係機関との連携を深めながら流域治水のより一層の推進を図っていきます。

### 2. 実施状況

日時：令和6年2月28日(水)10時00分～11時10分

会場：能代河川国道事務所 第1会議室

(WEB会議併用)

出席：能代市長、北秋田市長、大館市長、鹿角市長、  
小坂町長、藤里町長、八峰町長、  
上小阿仁村長、八幡平市長

秋田県総務部危機管理監、農林水産部長、建設部長

岩手県農林水産部長、県土整備部長

東北農政局 西奥羽土地改良調査管理事務所長

東北森林管理局 米代東部森林管理署長

気象庁 秋田地方气象台長

秋田内陸縦貫鉄道(株) 代表取締役社長

東北運輸局 鉄道部長

能代河川国道事務所長

(一部代理出席)

### 3. 主なご意見・コメント等

【能代市長】

・R5.7豪雨による悪土川の内水氾濫により320棟を超える住宅被害があったが、国、県、市による検討会を早急に立ち上げていただいた。災害は夜間等いつ起こるか分からない。市職員の欠員や住民の協力が十分に得られない非常事態も想定し、防災訓練等を実施していかなければと感じている。

【大館市長】

・岩手県及び八幡平市にご参加いただいたことは非常に素晴らしいことだと思う。  
・県内の積雪が非常に少なくなっており水源が心配。流域治水の取組は大雨が降ることを想定しているが、水資源を貯めて活用する視点を持つことも重要だと感じている。

【鹿角市長】

・非常時には対策本部に集合できないケースも想定される。ITを活用し分散対応が可能な体制づくりを。  
・災害対応が長期に渡る場合、職員の健康問題が懸念されるため、医療体制整備の視点を。  
・避難経路の事前把握には洪水到達時間の情報も必要ではないか。

【藤里町長】

・町内では2年連続で避難指示を出した。道路44箇所、河川6箇所等の被害があり順次復旧事業を進めている。浸水想定区域には重要施設も多いことから、地域防災計画の見直し等により対策を進めていきたい。

【八峰町長】

・R5.7豪雨の際には能代河川国道事務所よりリエゾンを派遣いただき、お礼申し上げたい。現在災害復旧事業を進めており、引き続き技術的支援等よろしく願いたい。

【上小阿仁村長】

・気候変動に伴う水害リスクの増加に対し、村としては山林整備による地球温暖化防止等で貢献できる。  
・ダムがあれば放流量調整により米代川への流入負担軽減が可能で、利水にも活用できるのではないか。



〔会議の様子〕